



食の安全「基本のお話」

— 第79回 —

「遺伝子組換え食品は危ない」は本当？

日本に輸入されているトウモロコシや大豆、ナタネ、ワタ(採油用)などの92%は遺伝子組換え品種です(2018年度推計)。遺伝子組換え作物は、食用油やデンプン、家畜の飼料として利用されており、私たちの食卓に欠かせないものとなっています。

1. 遺伝子組換え食品は、食品としての安全性が確認されたものしか流通できないようになっています。

日本では、食品安全委員会が食品としての安全性を評価しています。

遺伝子組換えで新たにできたたんぱく質やDNAによるアレルギー誘発の可能性も厳しくチェックしています。

新たな科学的知見が生じた場合は、再評価を行うことになっています。

2. 遺伝子組換え食品による健康被害や子孫への影響の報告例はありません。

遺伝子組換え食品が実用化されて20年以上経ちますが、認可後に問題となり、認可が取り消された品種はありません。

<世界保健機関(WHO)の見解>

「国際市場で現在市販されている遺伝子組み換え食品は、人の健康にかかわるリスクがあるとは思われない。遺伝子組換え食品が承認されている国々では、人の健康に及ぼす影響は確認されていません。」

3. 「害がないことを明らかにした査読^{*}付き科学研究」は650件以上に及んでいます。

※査読とは、投稿された論文をその学問分野の専門家が読んで内容の査定を行うこと。

(2015年現在)

<例>

①東京都健康安全研究センター環境保健部が、長期にわたる遺伝子組換え大豆のラット給餌試験を実施し、「長期にわたる遺伝子組換え大豆の摂食は、ラットに対し有害影響をもたらさなかった」と結論付けています。

【食品衛生学雑誌】



②米国科学・工学・医学アカデミーが、「遺伝子組換え作物の導入と、がん、肥満、糖尿病、腎臓病、セリアック病、小児自閉症スペクトラム障害などの疾患や食物アレルギーの増加との関連性」について疫学的分析を行い、「現在認証されている遺伝子組換え作物が、従来の作物より有害であることを示す証拠は見つからなかった」と報告しています。

<参考>

厚生労働省のホームページに遺伝子組換えとゲノム編集食品についての新しいパンフ「新しいバイオテクノロジーで作られた食品について」が掲載されています。

